

一九七七年二月一〇日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisunshin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話03)3377-4649

FAX(03)32299-5367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

### 〈もくじ〉

金沢新聞社、山口委員長の末期突進全労委委員長と労働時・中核労対は新橋女子二  
あつちい、王川計香らに、労働大震災の報「おひやう」に「案が重く大い」を掲載「六対  
とつていぬ」

#### ■巻頭言

福島からの大漁旗に思い乗せて

被災地メーデー 五月一日を日曜日に換え

.....2

三〇歳半ばから賃下げ

—NTT 貯めこんだ利益 九兆五千億円—

.....3

剰余価値率は百%超

—JRR東日本「期末決算」資料から春闘再構築を考える—

.....5

医療と内部被曝

.....7

ほど遠いギリシャ・ユーロの安定

—現代資本主義を考える(一)—

.....8

夏目漱石の社会観と現代社会

—労働組合の過去・現在・未来—

.....11

読者からのおたより

.....14 編集部だより

.....4

# 旬刊 社会通信

NO. 1123

二〇一二年七月一日号

二〇一二年七月一日発行  
(毎月二日、五日二回発行)

## 福島からの大漁旗に思い乗せて

―被災地メーデー 五月一日を日曜日に換え―

### 九九%怒り 万国の労働者団結せよ

四月二十九日、長田区（兵庫県神戸市）若松公園で「九九%の怒り：万国の労働者団結せよ」をテーマに第一七回被災地メーデーが開かれた。五月一日以外の開催は初めて。日曜日とあつて市民の参加は多かったものの、労働組合からの参加は減っているように感じられた。

今回、日になちを変えたことから、連合メーデーから被災他メーデーに参加する流れがなくなり、今後は各組合で動員参加型から自主参加型の組合員をどう増やしていくかが問われることになる。

被災地メーデーはこの二年、鉄人二八号が立つ若松公園で土、日と開かれてきたが、今年からしばらく五月一日が平日となるため、学校が横にある同公園は使えない。そこで会場、開催日をどうするか議論をはじめると、休日開催が大勢となった。しかし、参加団体、出演者の意見も聞いて慎重に今後の方向を出そうと、一二月にアンケートを実施、その結果をもとに一月に実行委員会を開いて結論を出すことにした。五月一日にこだわる声もあったが、「開催日」よりも、「地域・市民との繋がり」「場所」を優先する意見が多数で、被災地メーデーの原点に返って、再度、地域との繋がりづくりに取り組んでいくことになった。

### 「いごのプレート」から被災地へ

前日、各組合の協力で、公園にテント・机や機材が運び込まれ、ステージバックが立てられ、会場まわりのフェンスに阪神大震災、東日本大震災当時の新聞や、被災地メーデー一六年の歩みなどが張り出された。

当日は八時前から準備が始まった。

晴天の下、一時に第一部が幕を開けた。司会是全港湾プチ・ミント分会の岡本幸絵さんと社保労連の越智公介さん。玉川侑香さんが阪神大震災の詩『おっちゃん』と『家が建ったら』を朗読した後、もくとうを。

あいさつは、実行委員長の末廣英樹全港湾委員長と朝鮮初・中級学校幼稚部オモニの金美貴さん。

今年是小劇に換えて、東日本被災地連帯の取り組み「いのちのプレート 被災地」から被災地へ」を芝英機事務局長が提案した。

メーデーアピールは県職労神戸支部の福本宏文さんが読んだ。

### みんなのいご

第一部が終わると、待ちかねていた屋台村がオープン。全港湾は支部が焼き鳥とビール、青年部がえびせん・ジュースを販売。ワーカーズユニオンは三店舗。とん平焼

きと焼酎の豚酎亭、ぶた串の豚とん亭、障がい者施設の手作り小物販売の青い木。県職労神戸支部はわた菓子、県職労はぶつかけうどん、国労はフランクフルト。水餃子やチヂミ、おでん、奄美料理、ビッグイシューの販売なども。

第二部の司会は、お馴染みのユニオンの石上敬三さんと全港湾の赤徳利仁さん。

はじめに南米アンデスの民族衣装のおまつ堂によるフォルクローレ、そして岡本光彰さん、はるまきちまきさんが歌い、ちんどん通信社は会場後方から演奏しながら登場、加納浩美さんは小規模作業所マブイ六甲の仲間たちと歌った。

その後、元OSK歌劇団の有希晃さんが歌を、笑福亭仁福さんが『千早ふる』を披露。最後は、物真似のめぐまりこさんが松田聖子スタイルで登場した。

地域のお年寄りや組合OB、二世帯・三世帯での家族連れも多く、笑って、食べて、飲んで、懐かしんでと、あちこちで談笑の輪が広がっていた。

メーデー川柳は西日本NNTT関連労組・横林賢二さんの「子供の日 脱原発の贈り物」が選ばれた。

最後は、阪神大震災での歌『しあわせ運べるように』を合唱した。

### メーデーの意味「わかった」

特賞の有馬温泉ペア招待券を射止めたのは小規模作業所マブイ六甲の仲間。メーデー賞はティファール鍋セット、イオン発生器など。

予定より少し早い一四時半前に抽選会が終了すると、一斉に片付け開始。参加者の協力による片付けの手際よさは毎年感嘆ものだ。一六時半までには港湾福利協会、朝鮮学校への返却も終わった。

榎木ゆりさんは、「被災地メーデーが日曜日になり、近隣在住と思われる方々もパネルを見られていて、『こんなんやったな』などと言っておられるのを見ると、このメーデーの意味が分かったような気がしました。」そして、「子どもをつれた組合員でない若い職員が来てくれて『楽しめた』と笑顔で帰っていったので、良かったです。」と話していた。(黒崎)

### 三〇歳半ばから賃下げ

—NNTT 貯めこんだ利益 九兆五千億円—

出口のないデフレは、企業が利益を独り占めしていることが要因です。

NNTTにおいても、大幅賃下げや業務委託費の削減などで、貯めこんだ利益は九兆五千億円もあります。また、この六年間だけで株主配当は二倍超に増え、自社株買いは一兆円超など膨大な資金が株主還元として使われてきました。

NNTTには、非正規と正規の大幅な待遇改善ができる豊富な余剰資金があります。

### 何年たっても時給アップなし 通勤費、ボーナス出ない

派遣社員、契約社員、パートの二二春闘アンケート結果は、①ボーナスが欲しい(六

四％）、②通勤費が出ていない（五二％）、③契約更新に対する不安（四八％）、④仕事がなくなる（四〇％）、以下正社員の道が見えない、正社員との格差（複数回答可）。意見・要望では、①何年経っても時給が上がらないまま。年一〇円でもよいから上げて欲しい。②交通費、賞与が少しでもあると助かる。③契約期間が三か月と短く気が休まらない、等々でした。

六〇歳超え契約社員の改善要望では、①人間ドック、②昼食補助、③病気休暇の有給化の順でした。

### 評価に納得できないダメ制度 成果主義

成果主義についてのアンケート結果は、①評価基準が不透明（一八・八％）、②賃金切下げの制度（一八・三％）、③やる気を失う（二五・七％）、④面談前より決まっている（一三・五％）、⑤どんなにがんばってもⅡ評価（二〇・五％）、よい制度のまま継続はたった〇・七％にすぎません。大多数の人が評価に対して納得していないことは明らかです。

このうち二〇歳代の意見の幾つかを紹介しますと、①成果が上がりやすい部門と上がりにくい部門の評価方法を見直してほしい。②頑張っても頑張らなくても結局はⅡ（旧C）評価。ただ単に賃金を減らす言い訳にしかなくなってない、③他社と比較して賞与の算定が厳しいので、水準を上げてほしい。

### 賃金制度改悪反対

一三年度から厚生年金支給開始年齢は六一歳になります。これに伴って政府は来年度から、企業に六〇歳以降も働き続けたい人の再雇用を義務づける方針。これを逆手にとるようにNTTは、平成二五年度からの賃金制度改悪を意図しています。

NTTの提示資料によると、入社から一〇～一五年ごろまでは今の制度とほぼ変わらないが、それ以降は六〇歳の定年まで賃金の上がり具合を従来より抑え、浮いた人件費を六五歳までの再雇用制度に回すという。具体的な賃下げ幅は示していませんが、人件費総額が変わらない場合、五〇代では今より年収が一〇〇万円ほど減る例もあると報道されています。

基準内賃金が低下することによって、退職金、年金にも及ぶことになります。

「退職・再雇用」制度は廃止するが、既に五〇歳時に雇用形態を選択している社員等には適用しない、という。

まさに「やらざるを得ない」だ。育児・教育、老後の生活設計もめっちゃめっちゃになる。職場から絶対反対の声を上げましょう。（N関労東）

**編集部だより** ▽「被災地メーデー」、福島からの大漁旗に思いを乗せてはいいですね。みんなでメーデーをつくっている。運動は人と人との信頼関係と団結が「みんな」で強く、大きくありますものね。編集部は連合、そして五月一日の二つのメーデーを「はし」。みんなでの雰囲気、年々薄れていく。▽小出裕章さんを招いてはじめて労働者集会「労働者のための反原発講演会」がおこなわれます。日時は八月十二日（日）、午後一時三〇分、ティアラこうとう大ホール。今日は日程・場所のお知らせのみ。

## 剰余価値率は100%超

―JR東日本「期末決算」資料から春闘再構築を考える―

JR東日本の「二〇一一年度（二〇一一・四・一～二〇一二・三・三二）期末決算」が四月二六日発表された。「三期連続の増収増益」「過去最高の当期純利益一八九六億円」等を出した二〇〇七年度以降の「決算資料」と、労働者の賃金改善要求に対する会社回答等突き合せながら、春闘再構築について考えたい。

### 減収でも利益は増大

二〇〇七年度から契約社員が駅職場に大量導入されたが、この年度はJR東日本だけでなく、ソニーなども過去最高益を出していた。「グループ経営ビジョン二〇二〇―挑む」の初年度となった二〇〇八年度は、リーマンショックに始まる金融恐慌と非正規労働者の首切りが吹き荒れて「年越し派遣村」が誕生。二〇〇九年度の「歴史的な政権交代」を導き、それが、二〇一〇年度の「一〇四七名問題の政治解決につながる。

一方、二〇〇八年秋に発覚した信濃川不正取水問題は、水利権取消し、清野社長の謝罪をへて、二〇〇九年度特別損失の増加（関係自治体へ五七億円の「寄付」となり、二〇一〇年度は東日本大震災の影響を受けて運輸収入減少、特別損失も増加して「三期連続の減収減益」となり、「当期純利益」は七六二億円にとどまった。二〇一一年度は、次年度の業績予想も未定とされた前年度に比べ、「減収」ではありながらも「当期純利益は四期ぶりの増益」とされている。

この五年間を見て押さえておかなければならないのは、「四期連続の減収」「運輸収入は会社発足当初の水準」（二〇一二年四月「JRひがし」号外）と言っても、会社は赤字ではないということ。毎年三〇〇億円近い設備投資を行いながらも長期債務を着実に減らし、一八九六〇七六二億円の黒字決算を出して、株主への配当も大震災に関係なく毎年四三五億円行ったうえ、「利益剰余金」（＝内部留保）を毎年しっかりと積み上げて一兆六千億円も貯め込んでいる。言うまでもなく、この「利益剰余金」は、投資した株主が生み出したものではなく、会社の事業活動によって、つまり労働者の労働が作り出したものである。

しかも「交通新聞」二〇一二年五月一日号によると、震災による損益影響額は、一〇年度と合わせた累計で二一二億円。これには、運転再開のめどが立っていない被災線区の復旧費用は計上していないが、「震災による減収や復旧費用などの影響は当期でおおよそ取り込めた」と大和田徹常務・総合企画本部副本部長は言う。次期一二年度の業績予想は、当期純利益一六三〇億円の大幅な増益となる見通しで、一株当たりの配当金を一二〇円（一〇円増配）とする予定、とされている。

### 賃金は、会社の儲けの分け前ではない

単体決算では、営業収益をあげるために必要な「営業費」（営業収益―営業費＝営業利益となる）の大半を占める人件費・物件費（動力費・修繕費など）・減価償却費が明示され、この五年間で人件費は毎年減ってきた（計△七八〇億円）し、物件費も

減少した（計△四二〇億円）。

ここで注意したいことは、労働者の賃金は、機械や原料と同じ営業費用として計算されていること、生産活動が始まる前に会社が投下する資本の一部であること、つまり賃金は「当期純利益」の分け前ではないこと、従って会社の赤字・黒字に関係がないことである。「当期純利益」は、株主への配当の他はほとんど「利益剰余金」に積み上げられる。しかしそうだからと言って、我々が「利益剰余金」（＝内部留保）から賃金改善を要求するのは間違いだらうか。元々「利益剰余金」にしろ、「当期純利益」にしろ、労働者が稼ぎ出したものである。株主は社会的な価値を作らない。株主配当を増やす余裕があるなら、契約社員の雇いどめを止めて希望者全員の正社員化をはかるなり、労働者の賃金改善要求に応えるべきだ。

ベースアップは四年連続のゼロ回答。一時金の年間合計もこの五年間で六・二ヵ月から五・三ヵ月に減らされた。確実に労働者の生活状態は悪化している。

第一義的には、JRの圧倒的多数派組合であるJR東労組の責任ともいえるが、国労としても、「会社の業績や今後の見通し」などに惑わされず、「賃金は労働力の再生産費」と言う立場に立ち、少数派であっても労働者らしく、ストライキで要求を闘いとする春闘の再構築が必要である。「利益剰余金を貯め込んでいる」とは言っても、それを労働者に還元する決断を会社にさせるのは、力関係しかない。

### 剰余価値率 約百分

勉強会で昔も今も話題となるのが剰余価値率はいかほどか。JR労働者（本体、子会社含め）は約七万二千人弱。彼らの労働は一一年度約二・五兆の収益を上げ、収益から経費を引いた営業利益は三千六百億円。営業利益から支払利息を引いた経常利益は二七二一億円。これに特別利益に計上される補助金五百九十五億円等を含め税金支払前純利益は二千三百三十八億円。税（法人税、住民税・事業税）は一二四二億円。これら総計の結果が純利益とされる一〇八七億円である。

会社の儲けは労働力の価値＝賃金と労働者が新たに生み出す価値の差額でつくられる。今の会社決算書は複雑、素人には読み解けない。JR東会社はコンツェルンの最上位にあり、その下に百分子会社十六社、持分法適用会社、その他子会社五六社がぶら下がる。株主総会に出される決算書はすべてを含めた損益計算になる。

JR東約五万三千人の人件費（賃金）は四千六百七十九億円、連結七万二千名弱では六千億円。剰余価値は労働者の労働が生む。剰余価値は資本の価値増殖に貢献した関係者に分配される。この会社も資本を集めるため社債を発行し銀行から金を借りる。その利息が一千七十億円。黒字になれば税、法人税は九百八十四億円等。会社が営業費という剰余価値の分配金はわかるだけでもJR東の三四人への報酬十億四千万円、監査法人への支払い十億円。監査法人十億円は子会社ふくめだが、役員報酬は本体のみ。子会社の役員報酬全体は役員一社一五人として八百四十人、一人平均年収二千万とみれば百六十億になる。経費には吉永小百合さんに象徴される宣伝・広告費、会社に異議を唱えさせないための市民を巻きこんだ〇〇委員会、JR東は裁判で大忙し、弁護士への費用等裁判費用は少なくあるまい。

こうして、剰余価値率はどれほどかと大まかに数えてみれば①利子一千七十二億、②税金九百八十四億、③純利益一千八十七億、④独占企業が税という剰余価値から分配される庄縮金五百六十一億円、⑤表面にはまったく現れない旅行者等への利潤分配金、⑥役員報酬、役員に成り代わり労働者をこきつかう課長職以上の管理職手当、⑦宣伝・広告・交際費、⑧会社の非条理への保険である弁護士・会計士への費用、特別損失、投資等をふくめれば最低でも人件費六千億円を超える。したがって搾取率は百%を下ることはない。

## 医療と内部被曝

悪夢のような――実は本当に悪夢で、そしてそれは今も続いているのですから、これは現実です。一年が経過しました。大地震と津波による被害はこれ以上拡大することはありませんが、人災である原発事故による様々な被害は収束するどころか一層拡大する様子です。

「胸部X線撮影を最近は何年に一回、市の健康診断でおこなっている。しかし、私の子供のころは重病人が『レントゲンをする』と思われるにたらしい。結核が蔓延していたからだろうか。」

六年生の時、X線撮影で肺浸潤とわかり、三カ月余り入院したことがあった。この撮影のとき母は驚き、心配した。

そんなに病状が重いのかと思ったのだろう。そして肺浸潤は結核菌が原因のこともあると聞いて、より心配した。毎年、ツベルクリン反応で体内の結核菌の有無を調べていたが、私はいつも陰性で、BCGの痛い注射が待っていた。それを知っている母は、いつ結核菌が入ったのだろうか等々、レントゲンⅡ重病人との思いが強かったのではないかと思う。入院については、学校へ行きたいと思っていたこと以外覚えていないが、X線撮影のときの母の心配そうな顔は忘れられない。」

これは市内にお住まいの七〇歳代の女性から頂いた投稿です。診察をしていると、患者さんから「頭痛があるのですがCT検査をしなくても大丈夫でしょうか」と聞かれることがよくあります。症状をよく聞けば必要のない場合が大部分ですが、納得されない方もいます。こんな時は本当に困ってしまいます。万が一という可能性は常にあるわけですから。

原発の事故以来、放射線被曝が最大の問題となっています。このX線は、たとえ医療といえども放射線外部被曝の代表的なもの。最近耳にすることが多くなったシールドという被曝の単位があります。この数値をめぐって大きな混乱が生じています。被曝は少ないにこしたことはないという点では全員が一致できると思います。

医療における被曝量を具体的にしてみると、胸部単純撮影が〇・二ミリシーベルト（以下単位略）、胃透視四〜一〇、大腸造影検査五〜一五、胸部CT三〜五、腹部CT一〇〜二〇、膝関節CT二〜三となっています。現在議論されている数字と比較して

もかなり高いという印象をもたれるのではないでしようか。

以前イギリスの医学雑誌に、日本における肺癌の発生に胸部X線検査が関与している可能性があるとの記事が掲載され、話題となったことがあります。わが国では結核検診の長い歴史があり、X線検査には比較的抵抗感が少ないという背景があります。また世界に類をみないほどCT装置が普及しているため、検査へのアクセスが非常に容易です。このために検査の敷居が低くなり、ともすれば放射線被曝のリスクを考えずに検査を希望される患者さんが見受けられる印象があります。

今日、医療の放射線領域においてはいかにして被曝量を減らすかという多くの努力がなされています。しかしその一方でCT検査などはその活動領域をどんどん広げています。原発事故をきっかけに放射線被曝に関心が高まっている現在、メリットもあればリスクもあるという医療被曝にも関心を持ちたいものです。(さくら医院)

## ほど遠いギリシャ・ユーロの安定

— 現代資本主義を考える (二) —

EU諸国の政府首脳、そして世界の金融機関のお偉方は六月一七日におこなわれるギリシャの総選挙、フランス国民議会第二回投票をかたずを吞んで見守っておりました。フランスは緊縮策を維持しながら成長策に舵を切った大統領オランダの出身母体である社会が第一党になり、ドイツのメルケル首相と二人三脚で緊縮財政の旗を振ったサルコジの国民運動連合 (UMP) が野に下ることは必至です。

こんなフランスの動向はすでに織り込み済み、最大の焦点はギリシャ総選挙のゆくえです。選挙の争点は緊縮策をおし進めた二つの政党か反対の急進左派連合のいずれの党が第一党になるかです。「反緊縮」派が政権党になれば「ギリシャがユーロから離れることもあるのでは」、「その時ギリシャ、ユーロはどうなる」、「世界の経済は」との不安、心配が渦を巻いていたのです。

### 六月一七日 三つの選挙

議会制民主主義にあつては選挙が政治を方向づけれます。政治は権力闘争であり、権力は暴力の上に基礎づけられる。六月一七日、ヨーロッパのギリシャ、フランスそして北アフリカのエジプトで国家当面の進路を決める総選挙、大統領選。

ギリシャでの争点はEU (ヨーロッパ連合)、IMF (国際通貨基金) に管理され、国民にかれん誅求を押しつける財政緊縮策か、ユーロ圏離脱・新生ギリシャが争点。フランスではさきの大統領選で保守党・国民運動連合に勝った社会党オランダがめざす若者雇用一五万人、教育分野六万人雇用増加策にみられる緊縮一辺倒でない「成長」政策。エジプトではムバラク独裁に終わりの鐘が鳴るかです。

### ギリシャ 薄票の「緊縮派」勝利

ギリシャの結果は財政赤字をつくり、さらにかれん誅求を求める二つの保守党新民主主義党 (ND) 七九議席、全ギリシャ社会主義運動 (この党は社会主義を名乗ってはいますが社会主義の薫りもない) 三三議席を獲得、両党あわせ一一二議席。「緊縮

策反対、ユーロ離脱も選択肢」とした急進左派連合は前回より一九議席増の七一。共産党を中心とする反対、「半」対政党の議席数は六七。反対議席は一三八で前者を上回ります。新民主主義党、急進左派連合の得票率は二九・七％と二六・九％で差はわずかに三％にすぎません。国民は揺れ動いています。

メディアが「緊縮派過半数」「当面の不安解消」と報じる背景は選挙制度にあります。選挙制度は権力闘争を反映し千差万別。ギリシャでは第一党に五〇議席の「お守り」がつく。その結果、第一党に五〇議席がプラスされ一二九に。全ギリシャ社会主義運動と合わせ一六二だから過半数、これでしばらく「ギリシャは安泰」との評価です。しかし、二つの保守党の得票率は二九・七％と一二・三％の四二％で五〇％に限りなく遠い。日本の経済界、投資家は「危機はひとまず回避。株買って」とはしゃいでいますが、ギリシャをめぐる状況はこう葉をはりつけているにすぎません。

反対政党の動向はどうでしょうか。右翼民族主義政党独立ギリシャ人は三三から二〇へ。黄金の夜明け、中間政党の民主左派は微減。心配なのは終始一貫「緊縮策反対、ユーロ離脱、社会主義」を掲げる共産党が議席を半減（二六から一一）させたことです。共産党は労働者の自主的組織PAME（全ギリシャ労働戦線）と共同し全国的ストライキ運動を組織してきました。一歩前進二歩後退が彼らにとつての今の情勢。緊縮策はさらに強まる。その時、労働者はが、これからの焦点です。

### フランス 社会党安定過半数

フランスはオランダ大統領の社会党が過半数の三二四議席、下院議席総数は五七七。過半数は二八九ですからオランダは上下院で過半数を確保し政治の主導権を握りました。保守党は前回マイナス一〇、一九四の大敗北です。オランダはこれから五年、フランスをどうするかの実験に入ります。

### エジプト 軍がクーデター

昨年春からの北アフリカ諸国での反独裁・民主革命（アラブの『春』）に新たな動きはありません。この地域最大の大国、アメリカの北アフリカ・中東戦略の要石はエジプトです。

昨年、人民議会選挙でイスラム・ムスリム同胞団系の自由公正党が大勝利、「革命継続か旧政権派か」「イスラムか世俗か」をめぐる大統領選挙がおこなわれていたその最終版の六月一四日に、軍で構成される最高評議会が任命していた憲法裁判所が「無所属候補に割り当てられたはずの全選挙（全議席の三分の一）に政党所属の候補が出馬」したと、人民議会選は違憲との判断。最高評議会は議会を解散、封鎖。これは自由公正党が議会のみならず大統領職でも権力を握れば、旧ムバラク派の政治潮流は「歴史の博物館に入れられる」ことを恐れた軍のクーデターに他なりません。エジプトの混乱は必至。「アラブの春」の国ぐにも同じです。

### ギリシャで何が

ギリシャは人口一千万、国内総生産一七四〇億ユーロの小さな国です。ユーロ圏一七ヶ国は人口三・三億人、国内総生産八兆五〇〇億ユーロですから、ギリシャは〇

・三%、五%をしめるにすぎません。こんな小さな国の動向がなぜユーロ圏全体、そして世界経済に不安を与えるのでしょうか。

ユーロ圏一七ヶ国はガリバーのドイツ、そしてフランス、イタリアからルクセンブルグ、アイルランド、キプロス、ギリシャのようなりりパット(小人)の国がユーロを共通通貨とする経済圏です。大きな国と小さな国が同居する経済統合ですし、金融政策はヨーロッパ中央銀行(ECB)が一元的に管理するのに、加盟各国の財政政策は財政赤字はGDPの三%以内に抑えるというだけで、「制裁」事項はありません。ですからギリシャやアイルランド〇八年のリーマン恐慌から国家を維持するために、赤字を垂れ流していたのです。

発端は〇九年十月に発足したパバンドウレ内閣が「前政権が財政赤字を過小評価していた。三・八%程度とされていた財政赤字がGDP比一二%超になる」と発表したことからでした。ギリシャの財政危機は国や銀行が持っているギリシャ国債を下落させます。国や銀行の財政や財務状況は悪化せずにはおきません。危ないのはギリシャだけではないスペインもと、ドイツを除くすべてのユーロ圏にひろがります。

ギリシャに近代的製造業はありません。主要産業は海と空の青と輝く陽光、歴史遺産による観光業、輸出品は衣類、果実、オリーブ油など、二〇一〇年の輸出は二〇九億ドル、輸入は五〇七億ドルと貿易赤字は三〇〇億ドル。財政赤字解消の方法は「出」を減らすか「入」をふやすか、この両者の組み合わせ以外にありません。

ギリシャはEUとIMFに緊縮財政と引き替えに協調融資を求めたのです。緊縮策の中心は富裕者より貧乏人にむかいます。ギリシャでは「入」は①付加価値税の税率引き上げ、②国営企業の売却・民営化、「出」は①公務員の定員や賃金の削減、②年金支給減額、支給年齢引き上げ、③失業保険の減額、④公共事業の凍結・中止が中心です。財政危機はさらに進み追加の緊縮策が国民を苦しめます。

ギリシャの労働者は約四五〇万人、労働組合組織率は三〇%。中心組織はギリシャ労働総同盟とギリシャ公務員連合、さらに共産党とPAME。大衆運動、ストライキ運動の中心部隊です。

「入」をふやすもう一つの強力な手段が貿易です。ユーロは今一〇〇円を割っていますが、財政危機が深刻化し始めた時期は一七〇円前後でした。ユーロ高は輸出を困難にし輸入を増やします。観光立国ギリシャでのユーロ高は観光客の減少とお金を使わなくなることで貿易収支はさらに悪化し、財政赤字はふくれ上がる一方です。

ギリシャ債務危機から始まったユーロ危機でユーロは一挙に下落、景気は冷え込みます。国内の混乱は観光客をさらに減らします。「ギリシャ ユーロから離脱か」の憶測は預金ユーロの取り付けに火をつけます。貿易は現金支払いを要求されますから、輸入品は値上がりし、緊縮策で収入が減少する労働者の多くは生活苦におち入り、失業率二二・六%、若者は五〇%が今のギリシャです。

こんな中でギリシャでの再選挙でした。メディアは「緊縮派勝利」を大きく伝えますが、その実態はこれからのギリシャの道がさらに困難さを増していくことを示しています。たとえば、「高給取りの政治家たちが緊縮策を強いている、彼らをつるしてやりたい。」

(つづく)

## 夏目漱石の社会観と現代社会

—労働組合の過去・現在・未来—

### 組合大会が始まった

組合大会が始まった。経営陣、そして政治の大失態を日本郵政労働者に押しつけるJ P 労組第五回大会は六月一三日〜三日間。「友愛・創造・貢献」を基本方針とする『J P 労組新聞』（六月四日付）は、大会の基本を『新たな郵政づくり』に向け、郵政グループを一体的に組織するJ P 労組の役割を再認識するとともに、事業の発展を通じた組合員の雇用確保と、労働条件の改善等に向けた諸活動を着実に実践するための具体的方針を確立する」と、①郵政改革の取り組み、②政治基盤の強化と国政選挙、③郵政再生、④人事・給与制度改革（本当は改悪）、⑤春闘体制再整理の五つをあげる。

金属労協の中心組合であり、連合会長を送り出す電機労連は、七月九日から二日間大会を開く。「電機産業は今、世界レベルの熾烈な競争にさらされています。日本の電機産業の発展に向けては価格競争から共存へのパラダイムシフトが必要」との観点から①総合労働政策の整備、②仕事基準による公正な賃金システムの確立、③総合労働条件確立が課題という。こんな時、六月一五日各紙は一面で「ルネサンス 工場を半減」「全社員四万二千の三割 最大一万四千人削減」と報じた。

政府・独占資本は国や自治体労働者に財政「危機」を口実とした行政「改革」、国家「公務員」の賃金切り下げを強めている。公務員は「労働者じゃない」「民間には解雇・首切り制度があるが、『公務員』にはない」と。そんなお先棒かつぎが、夏の蛍同様尻が光ってすぐ死ぬばかりの弁護士タレント橋下某である。

こんなことを考えながら、大会の基本視点、直面する課題についてメモを作ったけれど、頭は空になるばかり、筆はまったく進まない。ええーい、気分転換だと、友人と三四郎池、お化けのような楠を見る約束をしていたこともあり、しばらく前に古本屋で買い求めている『漱石書簡集』（岩波文庫）に目を通した。

### 「二十世紀を呪詛（じゆそ）する方がよい」

漱石は国家の留学生として英国へ。明治三十三年（一九〇〇）年九月八日、横浜埠頭から旅立つ。今ならロンドン・ヒースロー空港までひとつ飛び、約十二時間の空の旅。漱石先生はどうであったか。太平洋・東シナ海を経て香港、南シナ海・インド洋を経てセイロンのコロンボ、アラビア海のアデン、そして十月十四日にスエズ運河を通過、地中海を抜けてイタリア・ナポリに到着。ここで上陸後、列車で、パリに入り、一週間ほど滞在し十月二八日、ドーバー海峡を渡って、ロンドンに到着している。約二ヶ月、荒波に揺さぶられ、胃病もちの漱石には船旅の楽しみばかりではなかっただろうが、ゆつたりとした時間は世界観をみがく時間となったのではあるまいか。

漱石は常識人からすれば変人、奇人、へソ曲がり。東京帝国大学講師を辞め野に下り、博士号をやるから受けるとの文部省令に「現今の博士制度功少くして弊多き事信ずる一人なる事を茲（こゝ）に言明致します」とはねつける。漱石の世界観・哲学

とはどのようなものであったのか。野上豊一郎（一高・東大での教え子、弥生子の夫・英文学者）への手紙にこうある。

「頻年大学生の意気妙に衰へて俗に赴くや見受けられ候。大学は月給とりをこしらへてそれで威張つてゐる所のやうに感ぜられ候。月給は必要に候へども月給以外に何にもなきものどもごろごろして毎年赤門を出で来るは教授連の名誉不遜不遜之を存候。彼らはそれで得意に候。」

小生は頃日（けいじつ）ヘーゲルが伯林（ベルリン）大学で開講せし当時の状況を讀んで大いに感心致し候。彼の眼中は真理あるのみにて聴講者もまた真理を目的にして参り候。月給を当てにしたり権門からよめを貰ふやうな考え聴講せるものはなき様子に候。呵々（かか）。」

今の学者の連中に煎（せん）じて飲ませてやりたい名言ですね。漱石は三菱財閥の創始者岩崎弥太郎らを嫌悪し罵倒する。『わが輩』で、クシヤミ先生は実業家を「おまえらは三欠く定規、義理・人情・恥を欠く」と痛烈に批判する。その根底はいかんとさぐつていくと、明治四〇（一九〇七）年には「暑いのに牛込まで通うのは難儀だなどというのは不都合だ。口を糊（のり）するに足を棒にして脳を空にするのは二十世紀の常である。不平などいふより二十世紀を呪詛する方がよい」と書き送る。

漱石は二十世紀を存在の痛苦にみちた時代とみなし、軽薄人種を生み出す物質的・功利的側面を憎んでいた。こうして、漱石は明治三五年三月一日、ロンドンから書簡でマルクスを論じる。

「カール・マルクスの所論の如きは単に純粹の理屈としても欠点有之べくとは存候へども今日の世界にこの説の出づるのは当然の事と存候。」

### 向坂逸郎先生と漱石

向坂逸郎先生は『マルクスの思想』（『マルクスと現代』所掲、大和書房）に、この漱石の手紙を引用してこう述べる。

「『資本論』の英訳は、一八八六年に出ている。漱石は、もちろんマルクスの思想を正確に知っているとは、考えられないが、『貧富の懸隔』の甚だしさと、そのいろいろの結果を、ロンドンで見ても感想のようである。十九世紀末から二十世紀にかけて、資本主義が大いに発展して、帝国主義の段階にはいり、頽廢現象も露骨にあらわれてきたことを考えに入れて読むと漱石のなんでもない手紙を興味深く読める。」

夏目漱石は、右の手紙で『貧富の懸隔』とその頽廢現象が日本でもこの方向に『：現に向いつつある』と考えている。この事実は、今日ではわれわれの目に余るものがある。犯罪、殺人、自殺、精神異常、墮落、非行、公害等々は、田中内閣のインフレーション政策で、強く促進されている。」

### 労働組合結成百年

漱石は一八六六年に生まれ一九一六年に死んだ。漱石の五十年は日本資本主義発達したがって階級対立の矛盾の展開・発展とその結果である労働運動、社会主義運動創世記のときだ。歴史年表には足尾鉍毒事件（二八九一年）、海軍造兵廠職工ストライ

キ（一八九二年）、呉海軍工廠ストライキ（一九〇二年）、東京市電焼討事件（一九〇六年）、足尾・別子銅山ストライキ（一九〇七年）等々が書かれてある。

全国的な労働組合組織の結成も労働組合期成会（一八九七年）、そして一九一二年には後の日本労働総同盟の母体である友愛会がつくられていく。ちなみに日本最初のメーデーは八幡製鉄所、東京市電のストライキがおこなわれた一九二〇年である。

今年（一九四〇年）は友愛会結成から百年になる。友愛会から大日本産業報国会（一九四〇年）が創立されるまで、労働組合の結成と発展は赤旗、ストライキとともにあった。『共産党宣言』は日本労働運動の発展の歴史的・理論的な姿そのままだ。『宣言』から引く。

「プロレタリア階級は、さまざまの発展段階を経過する。ブルジョア階級に対するこれらの闘争は、かれらの存在とともににはじまる。

最初は個々の労働者が、次には一つの工場の労働者が、その次にはある地域のある労働部門の労働者が、かれらを直接に搾取する個々のブルジョアに対して闘争する。しかし工業の発展とともに、プロレタリア階級は数を増すばかりではない。プロレタリア階級はますます大きな集団に寄せ集められ、かれらの力は増大し、またかれらはますます強くその力を感じる。機械装置がだんだんに労働の差異を消滅させ、賃金をほとんどどこにおいても一様の低い水準にひきさげるので、プロレタリア階級の内部における利害や生活状態はますます平均化される。ブルジョア相互の競争が増大し、そこから商業恐慌が起るようになると、労働者の賃金はますます動揺する。機械装置の改良がたえずますます急速に発展するにつれて、労働者の全生活的立場はますます不安定になり、個々の労働者と個々のブルジョアとのあいだの争いは、ますます多く、二つの階級間の争いの性格をおびる。こうして労働者は、ブルジョアに対抗する同盟を結びはじめ。かれらは、その労働賃金を維持するために集会する。かれらはみづから継続的な組合を作って、この不時の反抗のために食糧を準備する。時には闘争は暴動となって爆発する。」

### 世界観を語り合おう

総評の解散、連合結成で赤旗が消えた。連合メーデーでの組合旗は黄、緑、青、橙（だいたい）、赤旗を翻すのは本当に少なくなった。連合幹部どもは要求・抵抗型労働運動は古くなった。参加・改革が時流とぬかす。だから、連合の方針は政策でうめつくされる。

その政策の考え方は①競争に打ち勝ち企業の発展で雇用・労働条件前進、②生産性向上⇨資本主義的合理化への協力、③今最大の特徴は資本主義は悪くない、悪いのは新自由主義。だから新自由主義でない「人間の顔をした」、「働くものにやさしい」資本主義に改革しようというに他ならぬ。

総評解体で生産性三原則は資本からすれば死語である。生産性向上は科学技術の急速な発展で複雑労働を単純化し、膨大な数の相対的過剰人口をつくり出す。少子化がいわゆるのに失業率は一〇%を超えるばかりか、とくに若者の失業率が平均の約二倍に、さらに不安定雇用労働者群が増え続けるのもそのゆえだ。こんなことを考え、学び、語り合う組合大会に近づけるのが最大の課題ではないか。（編集部）

## ◇ 読者からのおたより ◇

**御礼** 過日の二〇二二「団結フェスティバル」(五月一三日開催)は一七〇名以上の参加で成功させることが出来ました。これまで二〇回にわたる「団結まつり」から新たにフェスティバルを開催できたことは、ひとえに皆様方のお力添えがあつての成功でした。今後の県内での共闘運動・地域運動を始め、東京東部地区との共闘運動前進、さらに労働者が主人公となる社会を目指し、生活・生命と権利を守り、核のない社会・脱原発放射能問題解決へ皆さんと共に取り組み「首切りを許さない」、そして健康で安心して暮らせる社会になることを大きな課題として受け止めて職場・地域から微力ではあります。精一杯取り組んで行く所存であります。(国労千葉地本、反失業共闘)

**ガンバッテ** 一年分購読料送ります。残金、カンパとします。ガンバッて下さい。(福島・S)

**編集部より** カンパありがとうございます。「通信」の内容についてご意見を。さらにはがんばる力になりたいけれど、いつもありがとうございます。発行の継承たいへんですが、がんばってください。あまりお力になれず申し訳ありません。(神戸・K)

**編集部より** おつしやるとおり。日々悪戦苦闘しています。激励に感謝です。

**遅くなつてゴメン** いつもお世話になりありがとうございます。たいへんおくれればせながらですが誌代お送りします。差額はカンパです。(東京・H)

**編集部より** 近く職場にうかがいます。

**発表会** ノドや発声のリハビリで神田香織の講談教室に行っております。六月一〇日には発表会をやりませぬ。(東京・K)

**編集部より** Kさんは歯切れ、声がいい！ 神田さんの一番弟子になるのも間近。

**くり返し** たいへんお世話になっております。誌代ちかくおくりませぬ。増えたり減つたりの繰り返して申し訳ありません。私もまだJP支部の執行委員を続けていますが、現場の分会活動がほぼゼロにちかいかい状態で、後継者づくりもままならないような感じです。六月には東京で開催されるJP全国大会には傍聴で参加することになりました。感想文を送れたらと思っております。(北海道・S)

**編集部より** 私の方こそいつもお世話になってまして。感想文楽しみにしております。時間があれば会いませぬか。

**原和美後援会** 原和美後援会員である私たちは、それぞれが所属する組織等で活動しながら脱原発を実現する取り組みに参加。原和美は「平和な社会と暮らしの向上」をめざし、脱原発一千万署名の先頭に立ち、七月一六日の「東京十万人集会」の成功に頑張っています。(後援会事務局)

**編集部より** 後援会報『原和美のせんたく日和』お送りいただき感謝です。エネルギー蓄積のごようすに、私どももがんばらにやーと励まされております。

**友人、知事選へ** 東北大地震のがれき広域処理問題、北九州は機動隊導入という事態に至つた。鹿児島では市民の手による「がれきパンフレット」が作成されました。「田舎出版の舞台裏」でお馴染みの向原洋隆氏の県知事選出馬表明。騒然としてきました。(鹿児島・まちづくりニュース)

**感銘** 山下けいきさんの報告、感銘しながら読んだ。日共は言っていることと、やっていることの乖離に唖然だナ。「日本の政治状況の腐りをまざまざと見たヨ。」(茨城・H)

**編集部より** 原稿に感謝。そしてお便りにも。

**感謝** いつも気にかけていただきありがとうございます。昨日はハンセン病施設愛楽園へ聞き取りに、今週末は、渡嘉敷島へ聞き書きに行きます。(沖縄・M)

**編集部より** 精力的な活動に敬意です。七月一六日(月)にはお会いできますかな。といつても、人人の波になるからそれはムリ。

**水路ズタズタ** 通水をしてから水路ズタズタに壊れていたことを知り応急修理、田植えはいつもより、一ヶ月おくれに、秋にはまた安くしか売れぬ米の心配をしながら田植えする農民の苦悩を知つてか知らずか原発の再稼働を進める政府にやり切れなさど怒りが抑えられませぬ。(福島・T)

**編集部より** 五月末、東北を旅、田植え遅れているなどの感じでした。被災地の復興ほつたらかしの野田には腹立たしい。

**トイレはどこに** 私の生まれ、育つた家は大正十五年に建てた茅葺き屋根の家でした。その家は、風呂は八十メートルほど離れていました。家の中に風呂を移設しましたが、トイレは最後まで外でした。原子力発電所から出る排泄物は処理ができないまま貯蔵プール等と、のんきな名称の猛毒庫に溜込んでいます。原発はトイレの無い住宅と同じです。(帯広・みんな)